

日本農業
法人協会

東京で創立10周年イベント

3月13日(土)と14日(日)の2日間、好天に恵まれた東京・代々木公園では、(社)日本農業法人協会が設立10周年を記念してファーマーズマーケットを開いた。会場のテントでは都道府県ごとに法人が、農業のプロが生産する「本物」の農産物やこだわりの加工品を販売し、来場した消費者に農業法人の存在感をアピールした。出展した農業法人経営者や主催者に、イベントにかける思いなどを取材した。

プロが作る本物を 消費者にアピール

日本農業法人協会理事り組み、それを飼料としたで、せとかやデコボンなど薄緑色の卵を販売する茨城自慢の果物を販売する愛媛 県(株)M&Yシモタファーム 県の(有)信介農園代表取締役の霜多増雄代表取締役(64)の毛利信介さん(65)は「単に高品質な農産物と「値段が高いつか安いつか 言うだけでは伝わらない。でなく、「本物」を選んで パネルを使いながら説明 てもらいたい」という。 し、消費者と話し合いたい」と意欲を語った。



マーケットは来場者であふれ、農業法人自慢の商品と自らの農業をアピールした

業から日本を元気に!

国産への理解高め 食料自給率向上へ

広島県の(有)ファーム・おだ組合長の吉弘昌昭さん(71)は「国産農産物を食べて食料自給率を上げることが食料危機への備えになる。消費者にはそれを分かってくれたい」と語った。



体験イベントも大盛況

として食の安全・安心に取り組んでいるが、その継続には再生産可能な農業の実現が欠かせない。若者が夢を持って、子どもを大学に出せる日本農業をつくるため消費者に理解を求めたいと訴える。茨城県の(株)大嶋農場代表取締役の大嶋康司さん(50)は「安くてもいいものなんて絶対にできない。値段を先に見て高いというのではなく、品質を先にみてから評価してほしい」という。

生・消がふれあい 法人組織にも力



全国の知事からの応援メッセージを示す実行委員長 長の井尻弘さん

が結集したことを「みんなの思いが今この会場に詰まっている」と表現。理事で京都府の(株)杜若園芸代表取締役の岩見悦明さん(46)は「イベント



松岡義博会長

で組織がひとつになれた」という。

日本農業法人協会の会長を務める熊本県の(有)ツコファームの松岡義博

同イベントの実行委員長を務めた、千葉県の(株)生産者連合デコボン代表取締役の井尻弘さん(48)は「とにかく天気がよくて良かった。今回のテーマは農業から日本を元気に

「お... が、な... 月間... 切る... たま... コク... りり... 岡... おひさまぴりん